

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4390100206
法人名	有限会社 熊進企画
事業所名	グループホーム 錦ヶ丘
訪問調査日	平成 20 年 9 月 30 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 30 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日平成 20 年10月 23 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4390100206		
法人名	有限会社 熊進企画		
事業所名	グループホーム 錦ヶ丘		
所在地 (電話番号)	熊本市錦ヶ丘26番地11号 (電話) 096-367-0565		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 205号		
訪問調査日	平成20年9月30日	評価確定日	平成20年10月30日

## 【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 10月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 コンクリート造り	
	4 階建て	2 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	15,500 円
敷金	有(110,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	315 円	昼食 630 円
	夕食	630 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	3 名	要介護2	0 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 89 歳	最低 74 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	社福恩賜財団済生会熊本病院 山部歯科医院
---------	----------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1階がデイサービス、2階がグループホーム、3・4階が高齢者住宅と多機能的な構造のホームは住宅、商店街、学校や消防署等が近くにあり、幹線道路に面しているが周囲は緑も多く、ホームから街路樹が望める恵まれた環境にある。開設2年が過ぎ、新体制となりボランティアの活用や同法人との連携が強化され入居者の行動範囲が広がり、地域との交流促進に繋がっている。運営推進会議が情報発信源として生かされ、地域の「ふれあいサロン」を企画・参画し、地域福祉の拠点としての一役を担っている。「入居者が元気で朝を迎えられることに喜びを感じる」という職員の優しさや寄り添いのケアが入居者の穏やかな表情となって表出され、ゆっくりとした生活の中に機能維持に立位での歩行や生活リハビリを重視したケアを実践し、家族的な温かい雰囲気を持つホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は異動して間もないが、評価の意義をよく理解し、サービスの向上に活用する意向である。昨年度の評価結果から災害対策として地域住民の協力が得られる等具体的な成果を上げている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己・外部評価を日々の振り返る機会、取り組んできたことの確認のツールとして捉え、管理者は全職員にアイデア等を記入してもらい全員で話し合い、職員の気づきや改善点を明確にし、優先順位を付け改善へ向け取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は多彩なメンバーの参加のもと定期的に開催している。今年度より全家族へも会議内容の事前通知を行うようになり、有意義な意見交換会となっていることが議事録より窺い知ることができた。入居者の現状やホームの近況報告等がさなれ、家族の意見や助言により、具体的な改善が図られている。又、高齢者虐待防止法を議題とした勉強会を同時に開催し、ホームと地域、家族とが一体となって支援しようという姿勢が窺われる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時生活の様子や健康状態を報告し家族とのコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めている。運営推進会議を問題提起の場、家族同士の交流の場と位置づけ全家族へ案内状を送付し参加を得、意見や要望をホーム運営に反映するよう努力している。重要事項説明書にホーム内外の相談窓口を明記し、玄関に意見箱を設置しているが意見等は投函されておらず意見箱の案内を行う意向である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会へ加入し会合への出席や地域の行事への参加、清掃活動に参加するなど地域の一員として積極的に活動している。今年度よりふれあいサロンが立ち上げ企画・参画し、予防体操を採り入れ職員が指導したり、ヘルパ実習生の受入れ等ホームの持つソフト面からの支援を行っている。ボランティアとして地域住民の訪問もあり、入居者の得意分野を活かし雑巾がたくさん縫われており、今後小中学校へ届け交流を図ることや更に隣近所の住民に立ち寄ってもらうよう声かけを行う意向である。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念「誠実と笑顔・安全と安心・地域社会の信頼」の各項目を大切にすることの他、経営理念3項目を踏まえ、ホーム職員が話し合い、ホーム独自の理念を掲げている。地域密着型として、入居者一人ひとりがその人らしく地域の中で暮らしていけるよう支援することを理念に込め、地域との交流促進に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	ホーム理念の掲示と名札に法人理念を書き入れ、意識を持ったケアに当たっている。毎朝申し送り前の理念の唱和による共有化を図り、管理者は事例を通じて指導を行い、職員同士も入居者一人ひとりの“らしさ”への方向性や支援を話しあいながら、理念の実践に向け日々取り組んでいる。	○	新体制となり(管理者の変更)、目標を持ったケアや方針を具体的にしていく方針である。又、地域住民として何をすればよいかも模索されており、理念に基づき具体的に年間目標を掲げるなど、実現が期待される。
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会会合への出席や回覧板で得た情報により地域の行事への参加、清掃活動に参加するなど地域の一員として積極的に活動している。今年度より「ふれあいサロン」が立上がり企画・参画し、予防体操を採り入れ職員が指導したり、ヘルパ実習生の受入れ等ホームの持つソフト面からの支援を行っている。 地域住民は敬老会へ踊りのボランティアとして参加したり読み聞かせボランティアとして交流している。入居者の得意分野を活かし雑巾縫いを継続しており、今後小中学校へ届け交流を図ることや更に隣近所の住民に立ち寄ってもらうよう声かけを行う意向で		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己・外部評価を日々の振り返る機会、取り組んできたことの確認のツールとして捉え、全職員にアイデア等を記入してもらい、職員の気づきや改善点を明確にし、優先順位を付け改善へ向け取り組んでいるところである。昨年度の評価結果から災害対策として地域住民の協力が得られる等具体的な成果を上げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会長・民生委員・包括支援センター・コミュニティセンター会長・社協会長・家族等の多彩なメンバーで開催している。今年度より全家族へも会議内容の事前通知を行うようになり、有意義な意見交換会となっていることが議事録より窺い知ることができた。入居者の現状やホームの近況報告等を行い、家族の意見や助言により、より安全な入浴とするためバスボードを購入する等具体的な改善を図り、高齢者虐待防止法を議題とした勉強会を同時に開催したりと、ホームと地域、家族とが一体となって支援しようという姿勢が窺われる。	○	全職員で委員や家族の意見・要望に積極的に取り組みサービス改善に繋がっている。自己・外部評価の意義説明をしており、運営推進会議で評価結果を話し合ったり、委員がモニター役として更に質の向上に役立てられることを期待したい。又、全家族へ事前通知され多くの家族の参加があり、出席できなかった家族は面会時に議事録に目を通されているが、議事録を送付し情報の共有化に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市開催の集団指導への参加や入居者の認定更新時等情報交換を行っている。地域のボランティア会や民生委員の会議へ参加し相談にのったり、保健センターの保健師や地域包括支援センターと密な連携を図っており、運営推進会議にも保健師の参加を依頼する意向である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時生活の様子や健康状態を報告し家族とのコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めている。また、入居者の心身の状況変化に応じ随時電話連絡により家族との共有化や不安解消に当たっている。金銭管理は手持ち現金預かり金台帳を作成し家族のサインによる確実性を図り、家族通信に職員の異動を掲載していたが現在通信誌が途絶えており、運営推進会議の中で紹介している。定期的には運営推進会議の案内状に個別に写真を掲載し全家族へ送付している。	○	家族通信の再開により、家族への定期的な報告や職員の紹介の場とされることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に何でも気軽に話し合える雰囲気心がけ、運営推進会議を問題提起の場、家族同士の交流の場と位置づけ全家族へ案内状を送付し参加を得、意見や要望をホーム運営に反映するよう努力されている。重要事項説明書にホーム内外の相談窓口を明記し、玄関に意見箱を設置しているが意見等は投函されておらず意見箱の案内を行う意向である。	○	家族の訪問時や運営推進会議時に意見や要望が挙げられているが、意見箱の活用は少ないとのことであり、それに替わるものとして無記名式のアンケートの実施等検討され、更に家族の意見や要望の収集に期待したい。

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員による支援の重要性を認識し全職員を常勤としているが、昨年度管理者の離職や職員の資格取得により法人内異動が行われ、管理者は同法人からの異動であり入居者とも顔見知りであったことでスムーズな交替ができています。職員の交代時は1ヶ月間の引継ぎ期間を設け、入居者の状況把握によりダメージ防止に努め、管理者は離職防止やストレス軽減に職員とのコミュニケーションを図り、職員同士も何事も常に話し合いケアに当たっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は法人全体の研修計画担当者であり年間計画を立て、全職員の育成に努めている。法人全体の2ヶ月毎の研修や外部研修に参加したり、職員同士も日常のケアの中で分からないことは聞きあう等レベルアップに努めている。又、資格取得も推奨しており、社内でも週1回の勉強会を開催(介護支援専門員)している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、意見交換や事例検討等を通じた交流やネットワークにより質の向上に取り組んでいる。職員の交換研修を通じたスキルアップの構想もあり、職員同士の交流に意欲的である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申込み時本人・家族の思いや意向、生活や心身の状況を把握し信頼関係を作り、見学や体験により本人の納得の上での入居となるよう努めている。家族も頻りに訪問される等、家族の協力のもと徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において何事も一緒に行い、体験談(戦中戦後の苦難の時)や思い出話が有意義な時間となったり、寄り添いのケアや傾聴により得意分野を引き出し、料理への参加・自室の掃除、雑巾縫い等行われ、大正琴を職員に指導されるなど共に支えあう関係が築かれている。出来たことを共に喜び、出来なかったことは次回の挑戦を励ましながら、入居者の生きてこられた人生の過程を共感し、尊敬の念を持ってケアに当たっている。		

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	24時間アセスメントシートを活用し入居者の言動や行動を把握し、個々の思いを気づき、意思を尊重しながら見守りのケアを実践している。言語的コミュニケーションの難しい場合には表情やしぐさ等から把握し、職員は情報の共有化に努め、本人本位となるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を踏まえ、担当者を中心にアセスメントとモニタリングを実施し、ケアカンファレンスには家族も参加もあり、家族の意見や担当職員の気づき・観察の結果が反映された個別的な介護計画を作成している。計画作成担当者はサービス内容を具体的に作成することで全職員がわかりやすく共有化を図れるように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期目標1年、短期目標3ヶ月とし、定期的には3ヶ月毎にケアカンファレンスの中で評価を行い継続か否か判断している。また、入居者の心身の状況や入退院等必要に応じて家族も参加したケアカンファレンスを開いており、家族の意見や要望、担当職員の意見等が反映した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階のデイサービスや3・4階の高齢者住宅との合同行事による交流やデイサービスのヒノキ風呂の使用、リフト車やデイサービスの送迎車の借用により入居者の行動範囲が広がる等法人の持つ多機能性を柔軟に活かしている。同法人の管理栄養士との情報の共有により食事療法を採り入れたり、病院受診は家族としているが家族の要望によりホーム職員が受診介助する等臨機応変に支援している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への継続的な治療や往診可能な医院での受診、訪問看護や訪問歯科も採り入れ、家族・医師との連携を図りながら適切な医療を支援している。	○	かかりつけ医との緊密な連携を図り適切な医療を支援しているが、ホームドクターの確保により更に家族の不安解消とされることを期待したい。

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向や医師の診断をもとに話し合い、重度化や終末期の方針を決めている。看取り看護についてホームでの対応を職員間で話し合い最期まで支えることが確認されており、法人としての方針の他ホーム独自の終末期ケア方針の文書化が進行している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の耳元での話しかけや自然体での関わり、ノックでの入室等より入居者一人ひとりを尊重し、思いやりを持って接していることが訪問時確認できた。新しい職員にはプライバシーへの配慮等ケア姿勢を指導し、職員間で入居者一人ひとりに合った会話等検討している。個人情報の保護方針や利用目的の掲示と家族から同意書を受入れ、記録物も事務所管理とする等情報の漏洩に周知徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのライフスタイルに合わせ、食事時間等その人らしく生活することを支援している。昼食時間ゆっくりと居室から出てこられたり、時間をずらす入居者等様々であり、食後もそのままカウンターで人の気配を感じながらもうとうとされる人、ソファで歓談する人、居室で昼寝をされる人等自由な生活であり、入居者同士で相談して散歩に出かけられるなど仲良く過ごされている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・昼食はホームでの調理、夕食はケアを重点的に行うため法人の厨房の食事となっており、入居者の力量により調理・盛り付けや片付け等と一緒に行われている。出来るだけ自力摂取ができるようにと自助具の使用や嚥下状態に応じたキザミ・ミキサー食と細やかな支援となっており、職員は入居者の横で介助や声かけを行っている。ホームと高齢者住宅の職員が交代での検食となっている。	○	職員の休憩時間が充分に取れるように交代の食事となっているが、入居者と同じ食事をできないか検討されているところでもある。休憩時間が取れることは大いに評価できるが、一緒に食事を楽しめるようまずは持参の弁当を広げて入居者の反応を確認したり、休憩時間の取り方等検討されることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前のバイタルチェックの徹底により入浴可否を見極め、概ね一日おきに午後からの入浴となっているが希望により毎日入浴される入居者もおられる。夏場はシャワー浴にしたり、階下のデイサービスのヒノキ風呂で楽しむことも出来る。入浴拒否に家族に協力してもらい夜の入浴等個々に支援している。		

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の出来ることや特技を把握し、出番や得意分野を發揮できるよう支援している。調理への参加や掃除・洗濯物干し・たたみ等体調により一緒に取り組み、雑巾縫いやコースター作り、大正琴の趣味の継続などによる自信回復に繋げている。居室に盆栽を持ち込み育てられたり、塗り絵等により意欲的な生活が送れるように支援している。法人内の子どもたちを休日に預かりふれあうことも気晴らしの一環となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望により買物や散歩・地域行事への参加等外出支援を行っている。車椅子使用者も外出できるようにボランティアの支援も活用することで行事計画が立案できるようになり行動範囲が広がりを見せ、法人内のリフト車や送迎車の借用も季節毎の外出支援や小グループでの外出支援に繋がっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵の無いケアの重要性を全職員が認識しており、1階の入口及び2階のホーム玄関は開錠している。居室は内鍵ができ、自分の意思で施錠される入居者もおられる。職員は常に入居者の所在確認をしているが、離所時の対応は1階の職員と連携して取組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人合同の定期的な防災訓練は消火器を使用したり、ホームでは2階のベランダが全入居者の集合場所として適当であることが消防署より指導され、地域住民にも訓練の周知を図り協力が得られている。緊急・災害時の連絡体制の研修を行い、火災時の非難対応・夜勤緊急時対応・火災地震非難等各マニュアルを整備し、煙探知機や自動火災報知器も完備している。更に夜間を想定した訓練が計画されている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嚥下状態や健康状態に合わせ、栄養バランスや食事形態を工夫した食事を提供している。個人情報シートに排泄や入浴等の他食事方法を記載し、管理栄養士と会議を行ったり、連絡表を用いて情報の共有化を図っている。毎食の食事量や熱発時等必要時に水分補給状況を記録することで栄養バランスや水分補給へと繋げている。食事支援について家族の意見が反映していることが記録より確認でき、家族と連携を図っていることが窺われる。		



外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階のグループホームは共有空間やベランダに季節の植物や花・野菜が植えられ、バリアフリー化が徹底し、外界も見渡せるホームである。掃除が行き届き、澁みない空気が漂った共有空間には季節に応じた入居者の作品を掲示し、幹線道路に面しているが騒音も無く、夕日や反射日光にはカーテンの開閉や照明も自然光に近いようにこまめに調整する等居心地良く過ごせるよう工夫している。更に管理者は入居者がソファで寛がれているが、畳のコーナーを作り寛いでもらい和の雰囲気を感じてもらうのも必要ではないかと考慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台とクローゼットが備えられた居室は、使い慣れた家具や仏壇、テーブルや椅子、テレビやラジカセ等生活習慣に応じ持ち込まれ、趣味の盆栽や家族写真を置き、レイアウトも入居者・家族と話し合い、工夫した居室となっている。熱探知機や煙センサー、空調も完備しており、安心面への配慮と個別の温度設定等心地よく過ごすよう工夫が随所に見られる		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム錦ヶ丘
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市錦ヶ丘26番11号
記入者名 (管理者)	稻留 里美
記入日	平成 20 年 9 月 11 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念のもとに、利用者様のその人らしさが見える方向付けと支援の取り組みの確認を行なっている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	隣近所の方も誘えるような行事や茶話会の計画・声かけの実施を行なっていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	小学校・中学校との交流を今まで以上に多く行なっていきたい。雑巾縫いが中断されてしまったので再開始し、学校に寄付していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ヘルパー養成事業所より実習生の受入れを行なっている。その中で介護技術はもとより認知症に対する理解とその対応について強化している。また、今年度より地域の「ふれあいサロン」への手伝いが始まった。その中で健康チェックがあるので地域の方の不安なことなどの相談に乗っている。	○	今年度より地域の「ふれあいサロン」への手伝いが始まり、特に校区が認知症予防モデル校区になったことにより認知症予防ができるリハビリの講話提供を行なう予定である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行なうことにより今後、取り組んでいきたいことが職員より積極的な意見が出され新たな取り組みも行なうことができてきた。	○	職員が受けた研修内容を把握し実施に向けていく。定期的な外出行事を今後も続けていく。入居者全員での外出参加ができるよう話し合い実施に取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主な行事予定の案内や入居者の方の状況を常に報告し意見を頂きサービスに反映させている。またご家族からの意見や不安な点も積極的に聞き、高齢者虐待防止について勉強会を運営推進会議の中で開き地域の方・家族と虐待にならないような安全なサービス提供ができるよう取り組んでいる。	○	今年度より全員の家族へ案内を送付し任意参加を依頼している。積極的な、ご家族からの意見や要望を聞くことができ、サービスの改善に繋がっている。防火訓練の報告も行なっており包括の方より、まずはスムーズな緊急連絡ができるようとの意見を頂いている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する集団指導へは参加を行なっている。地域のボランティア・民生委員会議にも参加を行ない、地域住民の方の問題・不安点も話し合う場がある。また入居者の方の認定更新の機会や地域の会議の時には保健師とも情報交換を行なっている。	○	ボランティア・民生委員会議時には地域住民の認知症を患った方の相談や報告があり参加しているので、保健センターの保健師や地域包括支援センターの方と話し合う機会を持っている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の機会には職員に案内を行ない参加を行なっている。参加できなかった職員には参加した職員より報告をしてもらい学べるようにしている。	○	8月に熊本県宅老所・グループホーム連絡会開催の研修会に2名の職員が参加し学ぶ機会があった。今後は職員全員が内容を把握できるよう定期的な勉強会を開いたり、運営推進会議の中でも学び、ご家族にも知ってもらえるような努力を行なっていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議の中で勉強会を開催し、地域の方・家族と共に学ぶ機会を設けた。常日頃より介護サービスについて虐待にあたらぬか話し合いサービスの質の向上に努めている。	○	今後も定期的な勉強会を実施し、常日頃より職員同士で虐待にあたらぬか話し合いを続けていく。日頃のサービス内容は、ご家族に常に報告を行なっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・ご家族の面会時や電話連絡時に契約・解除の内容において不安・疑問点を十分に聞き、説明を行なっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者及び、ご家族とは会話の中で十分な信頼関係が築けるような努力を行ない、なんでも気軽に話せる雰囲気を作っている。また入居者との個別な会話の場を設け、不満等が話せるようにしている。また、その内容をご家族にも話し、報告書として運営者にも報告を行ない、検討会を開催し改善できるよう努力している。	○ 日常の中で職員が不快な言動や態度・介助になっていないかについて日頃より職員同士、話し合いお互いに注意するようにしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時には必ず本人とホーム内の近状の報告を行ない、健康面での不安な時は連絡を早急に行なうようにしている。金銭管理は定期的に使途金一覧を確認してもらいサインをもらっている。	○ 家族通信が一時、途絶えていたので運営推進会議の案内の中で個々の写真を掲載し送付している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などにコミュニケーションを図り、何でも話せる雰囲気作りを行なっている。また運営推進会議でも話せる時間を設けており今後の、サービス及び運営に反映させられるよう努力している。	○ 意見箱は設置しているが活用があまりされていないので、今一度、意見箱の案内をおこなっていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや日頃の会話の中で意見や提案事項を聞き、実現に向けた取り組みを行なっている。	○ 入居者と一緒に日常生活を送ることができるよう細やかな援助方法や、作業の導入に取り組んでいる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	早めの計画が立てれる分には勤務交代を実施取り組んでいる。緊急時においては他部署より応援を依頼するなど職員の確保に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常日頃より職員の話しを聞きストレスを溜めないよう努力をしている。異動・離職時には1ヶ月の猶予を持ってスムーズな引継ぎができるよう取り組んでいる。	○ 職員間のトラブルがストレスにならないよう管理者として話を聴き、対応を早急に行なっていく、離職者を出さない努力を行なっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での2ヶ月に1回の研修会への参加を行なっている。また資格取得希望者には取得に向けての研修会への案内や参加できるような勤務作りを行なっている。	○ 今年度はケアマネジャー取得希望者1名・介護福祉士希望者1名おり研修会参加・取得に向けて勤務作りを行なった。ホーム内でも、わからないことは、お互いが聞き合うなどの積極性が見られている。今後も資格取得可能者が居る時は資格取得に向けた働きかけを行ない職員のレベルアップを行ないたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加を通して交流を行ない、同業者との悩みの共有や解決策が見つかるよう取り組んでいる。	○ 同業者同士の訪問を広げサービスの質の向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを溜めないよう話しやすい環境作りを行なっている。休憩時間は十分に取れるような勤務体制作りにも努めている。	○ 個別的な話し合いができ、悩みを話せる機会を定期的に持っていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	社内研修を実施し質の向上に向けた取り組みを行なっている。また運営者も現場には足を頻繁に運んでおり入居者の状況把握・職員の勤務状況をよく知っている。資格取得に向けたアドバイスも行なわれている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申込時に生活や心身の状況を把握するように努め、不安などを聞いている。また来所時の様子を把握し本人へ受けいられるような体制作りにも努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時に困っていることやホームに入所するにあたって求めていることを聴くようにしている。また入居前には数回の面談や連絡を取り、さらに細やかな面を聞くようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の生活や心身・ご家族の状況を聴き、他のサービスの案内や現段階での在宅生活を送るにあたっての助言を行うよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方と相談し、何度か本人と来所して頂き、納得される入居へと心掛けている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人との会話や、ご家族よりの情報の中で、得意分野を見出し調理・掃除や大正琴の演奏・歌を歌ったりと共に行ない楽しんでいる。また昔の話を入居者より聴き、特に戦時中・戦後の大変な頃の話しを聞くことにより生きてこられた課程を少しでも共感できるよう努力している。	○	職員も入居者と一緒に挑戦・実践し、できた時は共に喜ぶようにしている。できなかった時は次回、挑戦できるように励ましている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で、ご本人の様子を報告し今まで介護されていたことや思いを聞き、同じ思いで支援していることを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は、日頃、本人が口にしている思いを代弁するように心がけ居室にて、ゆっくり一緒に過ごしてもらおうようにしている。また行事の案内や運営推進会議の参加を通して面会に多く来てもらえるよう行なっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来られた時は、ご家族同様の対応を行なっている。	○	遠くに住んでいる馴染みの方との交流を手紙などを通じ継続していけるよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶の時間には声かけを行い、コミュニケーションの場を作っている。利用者同士の会話やお互いの体調を気遣う面も見られている。また座る位置なども職員にて、さりげない誘導を行ないトラブルにならないよう心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了されてもホームに寄られたりされ、継続された関係が保たれている。	○	退去されても相談があった場合は受けていく。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが、どう暮らしたいか本人や家族より聞き取りを行ない、本人がしたいことを見守り支援しながらケアにあたっている。困難な場合には表情や言葉からその真意を探り職員同士で話し合い本人本位のケアに努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と面談を通して入居前の生活を知り、家庭での生活パターンが継続できるよう日頃より職員同士で話し合い実践している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間アセスメントシートを活用し生活パターンの把握に努めている。	○	24時間アセスメントを行なうことにより心身の状況の変化が把握でき、自身でできること・できないことを知るにより介助方法に変化をつけ個人の生活リズムを築き上げている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各担当者がアセスメント・モニタリング実施。家族の意見も聴き、評価に基づき職員間にてカンファレンスを実施し計画の継続・変更の有無を検討し介護計画書を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の評価を実施しているが、その他にも期間に関係なく入居者の状況の変化に応じ対応策を検討し実施している。ご家族にも意見を求め意見を反映させた計画書作りにも努めている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細やかな記録に努め、個別記録を基に職員同士で情報共有の活用を行なっている。職員は出勤したら個別記録を見るように努め状態把握をおこなっている。	○	ケアの実践が介護計画書の評価に繋がるよう記録の見直しや、職員同士記録方法を日頃より話し合っている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階はデイサービス、3・4階は高齢者住宅であり合同行事などを計画・実践し交流の場を作っている。家族が受診介助が困難な時は職員が対応を行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会や民生委員を通して外出行事の時などに校区のボランティア会などを活用している。	○	今後も外出支援や訪問などボランティア会の方の支援をおおいに活用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容や訪問歯科・必要に応じ往診や医療による訪問看護を医師の指示の基、話し合い活用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席をしてもらい入居者の状況報告を行い助言を頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的な、かかりつけ医の治療を行なってもらっている。また継続困難な方は協力医より治療を実施して頂いている。	○	状態悪化時などは速やかに、家族・医師に連絡し相談し助言を頂くようにしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医への受診が必要な場合は主治医・家族と相談し専門医受診につなげている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	本人・家族の要望や状態に応じ相談・助言を頂きケアに反映されている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院期間は治療の経過を家族・病院との情報交換を密に行ない退院可能な段階になったら受け入れ準備を行なっている。また退院後の必要な治療・観察についても助言を頂き日常生活が1日も早く取り戻せるような体制作りを行なっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向や医師の診断を基に重度化や終末期の方針を決めている。	○	ホームでも看取り体制ができるよう準備している。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所での「できること・できないこと」を職員同士で話し合い検討を行っている。今後、起こりうる変化については家族と相談し対応できること・できないことについて十分説明し理解をして頂いている。	○	方針を文書化し家族からの同意書を受け入れるよう準備している。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在、住み替えのケースはない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した声かけや言葉の使い方について職員同志で話し合いを持ち、一人ひとりの性格に合わせた言葉かけの仕方を確認・検討している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行事や外出などでは内容を説明し自己決定してもらうようにしている。また外出先の希望を尋ね取り入れたり、生活歴の基、趣味の支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴や生活パターンを把握し、その日の体調に合わせた生活が送れるように努めている。みんなで過ごす時間も大切であるが、居室にて一人で、ゆっくり過ごす時間も大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人に服は選んでもらうが毎日、同じ洋服にならない様にしたたり汚れたら、すぐに更衣をしたりしている。理美容は本人・家族の意向により定期的実施している。	○ 現在、理美容は訪問にて行っているが、希望があれば望まれる店への外出ができるよう支援していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には一緒に調理や盛り付け・後片付けなどを行っている。治療食や刻み・ミキサー食などは栄養士とも相談し、本人の状態に合わせた食事作りを行っている。また、できるだけ自力摂取ができるような支援を行っている。	○ 食べたいメニューを尋ね、もっと献立に生かしていきたい。また食材を買い物に行き選ぶ楽しみが持てるよう計画を立てている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物の種類を多くしてリクエストにて提供している。現在、日常的に、タバコやお酒を嗜好されている方はいない。	○ 今後も入居者の嗜好把握に努め楽しめるように支援していきたい。またタバコ・お酒が嗜好の方が入居されても楽しめるよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンや、サインを把握しトイレ誘導を行い、なるべくトイレでの排泄ができるよう支援している。	○	オムツやパットの使用減に努力していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前はバイタルチェックを行い、体調に合わせた入浴を行っている。	○	お風呂タイムを楽しんでもらえるよう浴室内の飾りつけや入浴剤の使用をしていきたい。また温泉などの利用も今後、行っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中も体調に合わせて臥床してもらったりしている。昼夜逆転にならないよう生活リズムを整えるよう日ごろより話し合っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯物干し・取り込み・たたみと入居者の体調などに合わせて役割を持ってもらっている。雑巾やコースター作り、貼り絵創作を行ってもらい生活に、より意欲が持てるよう支援している。	○	雑巾縫いなどの手芸や作品創作の継続に努め展示したりしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の中で必要に応じて支払いを行っている。必要時、一緒に支払いを行い預かり金があることを知ってもらい安心してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望を確認し近所の散歩に行ったり買い物と一緒にいたりしている。車椅子の必要な方も介助により外出し気分転換してもらえるよう心がけている。	○	遠出の外出活動もボランティアの支援を受け外出してもらえるようにしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節毎の外出行事や2～3人での小グループでの外出支援を実施している。	○	地域での夜に行われる夏祭りなどに職員で話し合い参加できるようにしている。また家族にも一緒に参加してもらえるような外出行事を計画していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や馴染みの方からの贈り物があった時は電話を入れ、本人にも会話をしてもらえるようにしている。	○	季節毎に葉書や絵手紙を出せるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、お茶を一緒に飲んでもらい訪問しやすい環境作りを行っている。また古くからの知り合いの方が何度も訪ねて来られたりしていただいている。	○	気軽に訪問できるよう声かけを行っている。また1階玄関が自動施錠となっているが面会時間以外でも柔軟な対応を行っている。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、事例はないが身体拘束について運営推進会議の中で地域包括支援センターの方より講話をして頂き、職員や家族・地域の方も共に学ぶ機会を設けている。	○	今後も継続した勉強会を行い内容の理解を深めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけていない。居室は、本人の意思により内鍵がかけられるようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら、一人ひとりの動向を確認している。また夜間は定期的な巡視を行い安全に配慮している。浴室には暖簾を使用し開けても、すぐには見えない工夫を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人での管理が可能かどうかを検討・判断し、必要に応じてハサミや裁縫箱は職員と一緒に使用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの心身状態や、その日の体調を把握し職員間での注意事項を声かけを行っている。またヒヤリハット及び事故報告書を作成、必ずカンファレンスを行い、その後の改善方法について話あっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	連絡方法・初期対応の仕方の勉強会を実施している。	○	応急手当や初期対応方法・蘇生法などを定期的な研修により学んでいく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な消防訓練が法人内にて合同で行われている。ビル内ではホームに緊急連絡システムがあるので法人・ホーム内のマニュアルもある。	○	緊急連絡がスムーズに行えるようホーム内にて独自の訓練を行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの心身の状況に関して、起こりえるリスクに対しては家族に説明し理解を得ている。また状況変化があった時も、すぐに報告を行い、職員同志でも共有している。	○	事故・ヒヤリハット発生時は、速やかに家族に連絡・経過の説明を行っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行い記録している。異常時は家族・主治医に連絡を取り、対応を行っている。	○	状態変化・起こりえるリスクを職員に申し送り、異常があった時は速やかな連絡を行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき、その効能・副作用について確認している。また風邪薬などの臨時薬や処方変更時には申し送りを行い、全職員が内服薬についての理解が得られるようにしている。また各個人での服薬入力を準備して誤薬がないようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い水分や乳製品の提供により、十分に摂れるよう心がけ便秘を最大限に防ぐようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、声かけを行い、必要に応じて見守り・介助を行っている。必要時には歯科受診を行い口腔内のチェックを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックしており個々の状態に応じた食事形態の提供を行っている。摂取ペースに合わせた内容にしている。治療食が必要な方は家族・本人・法人内の栄養士と相談し提供している。また水分も個々の好みの味にし、全量摂取を心がけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日の手すりやトイレ・浴室内の消毒も行っており、マスク・プラスチック手袋・手指消毒薬を常に準備している。また定期的な感染防止についての勉強会を行っている。	○	嘔吐下痢症が発生した時は速やかな対処ができる準備を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん・まな板・食器や調理器具の定期的な消毒を実施している。食材は必要に応じて使用する寸前まで冷蔵庫内に保管したりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関内には気軽に座れる椅子を設置し植物を置いたり工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースには植物を置いたりし、季節感を感じてもらおうようにしている。また夕日や反射日光などが不快にならないようカーテンを閉めたり、大きな音をたてないように心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの窓辺に椅子を置き、一人ひとりが自由に座れる工夫をしている。食堂テーブル席やソファで独りでくつろぐ姿も見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自宅で使い慣れた物を持ってきて頂き、居心地のいい空間を家族・本人と話し合い工夫している。	○	居室内の家具やベッドをやむ得ず移動する時は本人・家族と話し合いながら、本人が混乱しないよう配慮している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気・空調を行っている。また定期的な空気の入替えも行っている。温度調節は入居者に合わせ暑すぎたり冷えすぎたりがないよう配慮している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館、バリアフリーになっている。廊下・トイレ・浴室は手すりを設置している。床の水濡れや滑らないか常日頃より配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・各居室・浴室は、わかるように掲示を行って混乱を避けるようにしている。また浴室は、暖簾を設置、使用している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにて洗濯物干しやプランターを用いて花や野菜を育てている。気候や天気のいい時は、椅子を出し外気・日光浴を楽しんでもらっている。		



V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今回の自己評価を受けるにあたり職員全員に記入してもらったことにより様々な提案事項が職員より出てきた。職員が行ないたいこと一つひとつを検証し実現できるより、日々話し合っていきたいと考えている。また、1階がデイサービスセンター、3・4階は高齢者専用賃貸住宅があり、デイサービスとの合同行事等を起案し、積極的な参加を行なっています。また重度化しても気分転換が図れるようボランティアの方の協力を得て、外出行事を活発に行なうようになった。職員より勉強会も積極的に参加したいと法人内での研修・外部研修に参加しており、また運営推進会議の中でも地域の方・家族の方にも参加していただき、一緒に勉強会を行なっている。